

6月上旬、甲府工ナインが泥だらけになりながら、ノックを受けていた。緩慢なブレイクに、前田芳幸監督のけきが飛び、仲間の叱咤(しつた)する声が響く。その横で「創立100周年」ののぼり旗が風に翻っていた。

かめ

県大会 全36校戦力分析 ①

待も集まる。「選手を含めて自分たちがやることは毎年変わらない。甲子園を目指す」。前田監督は言い切る。

走り込みを徹底

昨秋の3回戦は、王者・山梨学院に0-8(七回コールド)で完敗を喫した。「得点(が)ゼロでは勝てない」(前田監督)と冬場は打力向上に力を入れた。例年以上に走り込んで下半

敗戦バネに打撃進化

甲府工・創立100周年 闘志新た



身を鍛えるとともに、腕の力(フツ)で腕の振り(フツ)と膝(フツ)で綱を登る新たなメニューを(フツ)の上げ下げを合わせることで(フツ)取り入れて握力と前腕の筋力(フツ)打撃のタイミング向上につな(フツ)強化にも取り組んできた。ラ(フツ)げ、体の軸を意識することで

送球へ生かすなど、野球に生(フツ)きる走りを徹底した。その成果は春大会にくつき(フツ)りと表れた。準々決勝の山梨(フツ)学院との再戦は4

創立100年の節目に11年ぶりの甲子園出場を目指す甲府工ナイン

甲府工グラウンド(フツ)で敗れたものの、2桁安打を記録。本塁打を放つ(フツ)た4番・坂本司は「力がついた実感(フツ)があり、振り負け(フツ)ない」と語り、前田監督も「飛距離(フツ)が伸び、成果が出(フツ)ている」と手応えを口にする。坂本だけでなく、春大会で中軸(フツ)を務めた小林海斗(フツ)主将や清水徳明を筆頭に、打力アップ(フツ)をナイン全体が感(フツ)じている。小林主将は「1-9番(フツ)まで切れ目がな(フツ)い。打てない打者(フツ)はいない」と自信を見せる。攻撃面と対照的(フツ)に浮き彫りとなつた課題が守備面(フツ)だ。山梨学院戦で

守備面の底上げも着々

は3失策、7四死球。春大会後はノックの量が格段に増え、「受け身になるな」「試合の状況を考えろ」と指揮官からは厳しい言葉が飛び。

投手陣がしのぎ

最速139キロのエース右腕・佐藤泰匡はボール1個分の制球にこだわり、変化球の精度向上に余念がない。春大会で登板した左腕・中込滉希も控え、3、4番手も5人以上の投手がしのぎを削る。守備面でもチーム力の底上げは着実に図られている。

公立校では最多8回の夏の甲子園出場を誇る。「優勝するためにはまだ力が足りない。大会までもう一段階レベルアップしないといけない」と清水。一年一年積み上げてきた学校の歴史と同じように、ナインは大会直前まで着実に力を積み重ねている。その先に2006年以来11年ぶりの大舞台が待っていると信じて。〈雨宮文貴〉

◇ 全国高校野球選手権山梨大会は7月8日に開幕する。出場36校は連覇、雪辱、復活などさまざまな思いを胸に、一枚の甲子園切符を目指して夏に挑む。初戦へ備えて準備を進める全36校の戦力を分析する。

6/14 山田